

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/04/04

## ECBの次の一手は引き締めで変わらず

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	↓	日足一目均衡表で三役逆転が点灯 予想レンジ: 115.400~120.700円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	↑	週足一目均衡表の雲が視野に 予想レンジ: 1.04800~1.10700ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	↓	ブレグジットに向けて交渉開始 予想レンジ: 135.500~141.000円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	↑	ドルの動きが重要に 予想レンジ: 1.21000~1.27500ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ユーロ/円 3月の推移

EUR/JPY

3月のユーロ/円相場は118.625～122.883円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の小幅下落(ユーロ安・円高)となった。

欧州中銀(ECB)理事会の声明がタカ派的と解された事などから、ECBの早期金融引き締め観測が浮上すると、13日に月の高値となる122.883円まで上昇した。ただ、その後はユーロ/ドルの上昇以上にドル/円の下落幅のほうが多かったため、ユーロ/円は反落。月末に一部報道を受けてECBの早期引き締め観測が後退すると、31日に118.625円まで続落した。



## 四本値

OPEN	119.242
HIGH	122.883
LOW	118.625
CLOSE	118.723

2日	ユーロ圏2月消費者物価指数・速報は事前予想通り前年比+2.0%と、2013年1月以来の高い伸びとなった。
9日	欧州中銀(ECB)は政策金利の据え置き(0.00%)を決定。声明で「金利は長期にわたり現水準かそれ以下に留まる」との見方を示した。ECBスタッフ予測は、経済成長見通しは17年が1.8%、18年は1.7%、19年は1.6%(昨年12月:1.7%、1.6%、1.6%)。また、インフレ率見通しは17年が1.7%、18年は1.6%、19年は1.7%(同:1.3%、1.5%、1.7%)であった。その後ドラギ総裁が「基調的なインフレ圧力は引き続き抑制されている」としながらも、「目標達成に向け正当化されるなら、理事会は利用可能なあらゆる措置を利用する」との一文を削除したと指摘し、その事について「デフレリスクに促された一段の措置の導入に向けた緊急性が存在しない事を示唆するため」と発言した。「成長へのリスクバランスは改善した」「新たなTLTRO(貸出条件付き長期資金供給オペ)に関する議論はなかった」とも発言したため、ユーロ買いが強まった。
10日	関係筋の話として、欧州中銀(ECB)当局者の一部が前日の理事会で量的緩和(QE)終了前の利上げを主張したと報じられた事を受けてユーロ買いが活発化した。
15日	オランダ下院選挙終了後の出口調査の結果が報じられるとユーロ買いが強まった。反イスラム・反ユーロを掲げる極右の自由党(PVV)は19議席にとどまり、第1党の座には就けない見通しとなった。
24日	独3月製造業PMI・速報が予想(56.5)を大きく上回る58.3となった事から、ユーロ/円は一時120円台を回復した。また、ユーロ圏製造業PMI・速報も56.2と予想(55.3)を上回った。
27日	9月の独連邦議会選挙の前哨戦として注目されていた26日の独ザールラント州議会選挙において、メルケル首相率いるキリスト教民主同盟(CDU)が第1党の座を維持。これを受けてユーロは対ドルでは買われるも、対円では弱含んでスタートした。トランプ米大統領が、前週末にオバマケア代替法案を取り下げた事を受け、ドル安の進行と同時に円が全面高となった事が大きい。
29日	ECBが今日9日の理事会で「利用可能なあらゆる手段を活用して行動する用意がある」との文言を削除した事について、関係筋の「我々はテールリスクの低減を伝えたかったが、市場は出口への一歩だと受け取った」「ECBは拡大解釈された」との発言が伝わった。市場では早期金融引き締め観測の後退と受け止められ、独国債を筆頭にユーロ圏の国債利回りが低下する中、ユーロ売りが強まった。
31日	ユーロ圏3月消費者物価指数・速報は前年比+1.5%と予想(+1.8%)を下回る伸びとなった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 日 経 平 均

OPEN	19226.94
HIGH	19668.01
LOW	18909.26
CLOSE	18909.26

## 独 D A X

OPEN	11915.03
HIGH	12313.29
LOW	11850.27
CLOSE	11312.87

## 独2年債利回

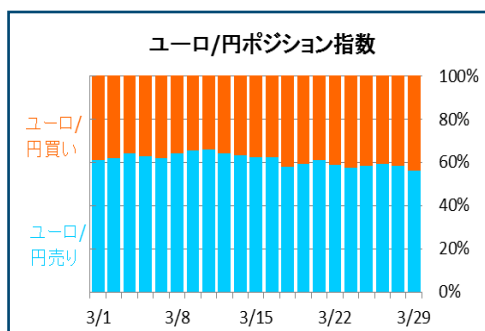
OPEN	-0.883%
HIGH	-0.684%
LOW	-0.885%
CLOSE	-0.740%

## 独10年債利回

OPEN	0.238%
HIGH	0.509%
LOW	0.219%
CLOSE	0.328%

## 3月のポジション動向

## 4月のユーロ圏の注目イベント



- ・2月ユーロ圏小売売上高(4日)
- ・4月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(11日)
- ・4月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(21日)
- ・フランス大統領挙第1回投票(23日)
- ・4月独Ifo景況感指数(24日)
- ・4月独消費者物価指数・速報値(27日)
- ・ECB理事会(27日)
- ・4月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(28日)
- ・臨時EU首脳会議(29日)

## 4月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

ユーロ/円は、昨年12月に天井を付けた後は軟調に推移すると、日足の一目均衡表で下落を示唆する三役逆転が点灯している。ユーロは対ドルでは買われる可能性があるが、対円では売られる可能性がある。ドル/円がユーロ/円と似たチャート形状となっていることから、ドル/円が年初来安値を更新する場面ではユーロ/円相場にも下落圧力が掛かる公算が大きい。ユーロ/円は200日移動平均線(執筆時117.682円)を下抜けると、週足の一目均衡表の雲下限(今月前半は116.00円台、後半は115.50円台)に向けた一段安もあるだろう。

なお、仏大統領選について、各種世論調査の結果から第1回(4月23日)は反EUを掲げる国民戦線のルペン党首の勝利が見込まれているが、決戦投票(5月7日)ではマクロン前経済相の優勢が伝えられている。ルペン氏が大統領になる可能性が小さいことから、先月のユーロ相場への影響は限定的であった。とはいえ、昨年の英EU離脱を問う国民投票のように波乱材料にならないとは言い切れないため、念のため注意したい。(川畑)

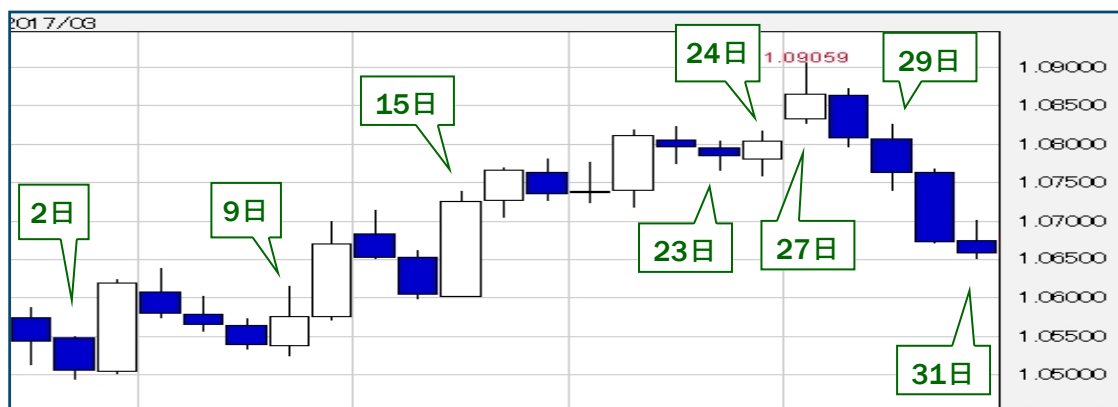
(予想レンジ: 115.400~120.700円)

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 3月の推移

3月のユーロ/ドル相場は1.04952～1.09059ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。

9日の欧州中銀(ECB)理事会の声明がタカ派的と解された事や、15日のオランダ総選挙で親EU派が勝利した事などからユーロ買いが強まった。また、同じ15日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げペース見通しを引き上げなかったため、ドル売りが優勢となった事もあり、ユーロ/ドルは27日に昨年11月以来となる1.09ドル台を回復した。しかし、その後はECB関係者の話をきっかけにECBの早期金融引き締め観測が後退した事からユーロが売られると、ユーロ/ドルは月末にかけて上げ幅を縮小した。



四本値	
OPEN	1.05754
HIGH	1.09059
LOW	1.04952
CLOSE	1.06594

2日	ユーロ圏2月消費者物価指数・速報は事前予想通り前年比+2.0%と、2013年1月以来の高い伸びとなった。
9日	欧州中銀(ECB)は政策金利の据え置き(0.00%)を決定。声明で「金利は長期にわたり現水準かそれ以下に留まる」との見方を示した。ECBスタッフ予測は、経済成長見通しは17年が1.8%、18年は1.7%、19年は1.6%(昨年12月:1.7%、1.6%、1.6%)。また、インフレ率見通しは17年が1.7%、18年は1.6%、19年は1.7%(同:1.3%、1.5%、1.7%)であった。ドラギ総裁が「基調的なインフレ圧力は引き続き抑制されている」としながらも、「目標達成に向け正当化されるなら、理事会は利用可能なあらゆる措置を利用する」との一文を削除したと指摘し、その事について「デフレリスクに促された一段の措置の導入に向けた緊急性が存在しない事を示唆するため」と発言した。「成長へのリスクバランスは改善した」「新たなTLTRO(貸出条件付き長期資金供給オペ)に関する議論はなかった」とも発言したため、ユーロ買いが強まった。
15日	オランダ下院選挙終了後の出口調査の結果が報じられるとユーロ買いが強まった。反イスラム・反ユーロを掲げる極右の自由党(PVV)は19議席にとどまり、第1党の座には就けない見通しとなった。米連邦公開市場委員会(FOMC)で、一部で高まった年4回の利上げ期待が後退してドル売りが優勢となった事も追い風となり、ユーロ/ドルは上昇した。
23日	ECBは期間4年の貸出条件付き長期資金供給オペ(TLTRO)で、市場予想(1250億ユーロ)のほぼ倍の2335億ユーロを供給した。これを受けてユーロがやや買われる場面が見られた。
24日	独3月製造業PMI・速報が予想(56.5)を大きく上回る58.3となった事から、ユーロ/ドルは一時1.08ドル台を回復した。また、ユーロ圏製造業PMI・速報も56.2と予想(55.3)を上回った。
27日	9月の独連邦議会選挙の前哨戦として注目されていた26日の独ザールラント州議会選挙において、メルケル首相率いるキリスト教民主同盟(CDU)が第1党の座を維持。これを受けてユーロ買いが優勢となった。前週24日にオバマケア代替法案を取り下げた事を受けてトランプ米大統領の政策運営を不安視したドル売りも重なり、ユーロ/ドルは一時1.09ドル台に乗せた。独3月IFO景況感指数は112.3となり、前回および市場予想(いずれも111.1)を上回った事も追い風となった。
29日	ECBが9日の理事会で「利用可能なあらゆる手段を活用して行動する用意がある」との文言を削除した事について、関係筋の「我々はテールリスクの低減を伝えたかったが、市場は出口への一歩だと受け取った」「ECBは拡大解釈された」との発言が伝わった。市場では早期金融引き締め観測の後退と受け止められ、独国債を筆頭にユーロ圏の国債利回りが低下する中、ユーロ売りが強まった。
31日	ユーロ圏3月消費者物価指数・速報は前年比+1.5%と予想(+1.8%)を下回る伸びとなった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NYダウ平均

OPEN	20957.29
HIGH	21169.11
LOW	20412.80
CLOSE	20663.22

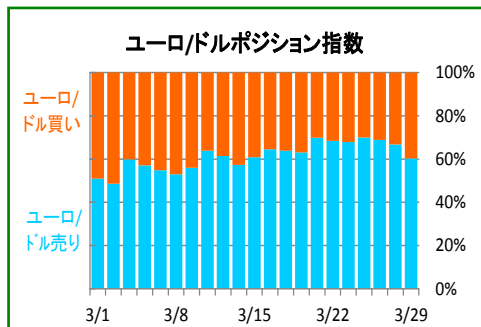
## 独10年債利回

OPEN	0.238%
HIGH	0.509%
LOW	0.219%
CLOSE	0.328%

## 米10年債利回

OPEN	2.4132%
HIGH	2.6277%
LOW	2.3460%
CLOSE	2.3874%

## 3月のポジション動向



## 4月のユーロ圏の注目イベント

- ・2月ユーロ圏小売売上高(4日)
- ・4月独/ユーロ圏ZEW景気期待指数(11日)
- ・4月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(21日)
- ・フランス大統領挙第1回投票(23日)
- ・4月独Ifo景況感指数(24日)
- ・4月独消費者物価指数・速報値(27日)
- ・ECB理事会(27日)
- ・4月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(28日)
- ・臨時EU首脳会議(29日)

## 4月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

足元でユーロ圏の早期金融引き締め観測が後退したとはいえ、インフレ率はECB目標(2%弱)をほぼ達成している上、ユーロ圏のPMI製造業が予想を上回っている事などから、ECBの次の一手は引き締めである事に疑いはなさそうだ。また、先月31日に公表されたシカゴIMMの投資筋ポジションは7923枚のショート(ネット)と、13万枚超のショートを記録した昨年11月と比べポジションの解消が進んでおり、ユーロ先安感が後退している。こうした中、今月も引き続きインフレや景況感など経済指標に注目であり、予想を上回る結果となればユーロ相場に上昇圧力が掛かる公算である。また、先月末のオバマケア修正法案の取り下げにより、トランプ米大統領の政治手腕が不安視されている(=ドル売り要因)事も、ユーロ/ドル相場の追い風となろう。ユーロ/ドルは先月高値(1.09059ドル)を突破すると、週足の一目均衡表の雲(今月は1.10669ドル)を射程に入れた一段高となる可能性がある。

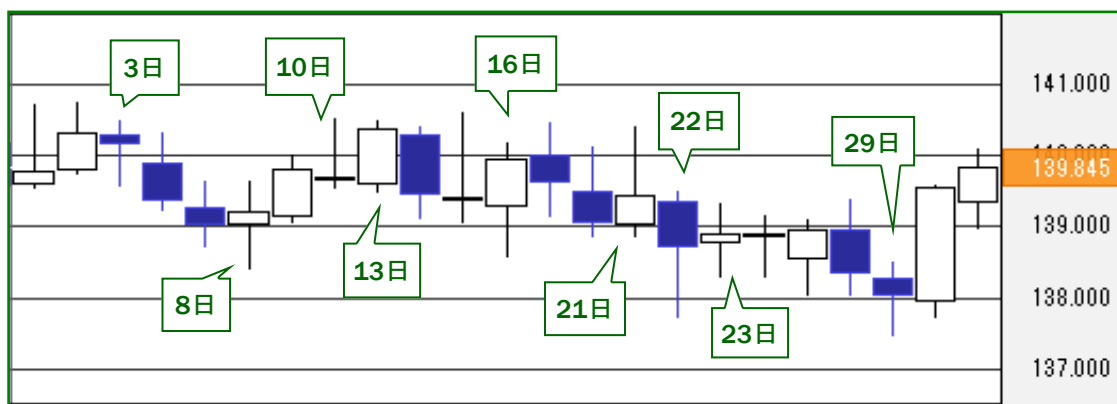
なお、仏大統領選挙について、複数の世論調査でマクロン前経済相の優勢が伝えられており、反EUを掲げる国民戦線のルペン党首が勝利する可能性が小さいと見られている。本稿執筆時点で過度にリスク材料視されていないとはいえ、昨年の英国民投票の前例もあり、念のため注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 1.04800~1.10700ドル)

# GBP/JPY

## ポンド/円 3月の推移

3月のポンド/円相場は137.502~140.751円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%の小幅な上昇(ポンド高・円安)となった。英政府は29日に欧州連合(EU)に対して正式に離脱を通知した。離脱の条件や離脱後の通商政策に関する交渉が英国に有利に進むとの見方は少なく、ポンドの重しとなっている。その反面、これまでのポンドの下落と原油価格の高止まりによって、英国のインフレが上昇する中、英中銀(BOE)の次の一手は利上げになるとの見方がポンド相場を下支えした。加えて、円相場にも方向感が出なかったため、3月のポンド/円の値動きは3.2円程度という小幅なものにとどまった。



四本値	
OPEN	139.615
HIGH	140.751
LOW	137.502
CLOSE	139.845

3日	英2月サービス業PMIが53.3と市場予想(54.1)を下回ると一時ポンドが売られた。しかし、仏大統領選の世論調査で、反EUを掲げる国民戦線のルペン党首の支持率が低下した事を受けて欧州通貨が買われた流れに沿って反発した。
8日	ハモンド英財務相は、EU離脱決定後初となる予算案を発表。その中で、2017年の成長率予想を従来の1.4%から2.0%へと大幅に引き上げた事を受けてポンド買いが強まった。ただ、来年以降の予想は、18年1.6%(従来予想1.7%)、19年1.7%(同2.1%)、20年1.9%(同2.1%)にそれぞれ引き下げられた。
10日	英1月鉱工業生産は前月比-0.4%と前回の同+0.9%から急減速したが、市場予想(-0.5%)ほどには減少しなかった。また、英1月貿易収支は108.33億ポンドの赤字と、予想(111.00億ポンドの赤字)を下回る赤字幅にとどまった。一連の統計発表後に一時ポンド買いが強まる場面があった。しかし、ロス米商務長官が、(貿易問題について)「日本との2国間の通商協定は優先度が高い」と発言すると円が全面高となったため、ポンド/円は失速した。
13日	スコットランド自治政府のスタージョン首相は、英国の欧州連合(EU)離脱の条件が明確になる2018年末か19年初めに、スコットランドの英国独立の是非を問う住民投票を再実施するよう求めた。これを受けて一時ポンド安が進行したが、英タイムズ紙が、メイ英首相がスコットランドの要求を拒否する意向だと報じた事などから反発した。
16日	BOEは政策金利(0.25%)と資産買い入れプログラムの規模(4350億ポンド)の据え置きを決定。議事録で、金利据え置きが8:1の決定であり(資産買い入れプログラムは全会一致で決定)、フォーブス委員が0.25%利上げを主張した事が明らかとなった。これを受けてポンド買いが強まった。
21日	英2月消費者物価指数が前年比+2.3%、英2月生産者物価指数は同+3.7%(予想:+2.1%、+3.7%)であった。また、英2月小売物価指数は前年比+3.2%、コアは同+3.5%と予想(+2.9%、+3.1%)となるなど、全般的に予想を上回った事からポンド/円は一時140.40円前後まで上昇した。
22日	英議会の付近で少なくとも12人が負傷する襲撃事件(のちに、犯人を含む5人が死亡、負傷者は40人と発表)が発生。この報道に反応して一時ポンドが売られた。
23日	英2月小売売上高は、除自動車燃料が前月比+1.3%、含自動車燃料は同+1.4%と予想(+0.3%、+0.4%)を大きく上回った。これを受けてポンド/円は一時139.10円台まで買われた。
29日	メイ英首相は議会で「EU基本条約(リスボン条約)50条に基づく離脱手続きが英国国民の意向に沿って始まった。英国はEUを離脱する」と表明した。なお、メイ首相はトラスクEU大統領側に宛てた書簡で、「離脱の条件とともに、将来的なパートナーシップの条件についても合意する必要がある」とし、EUと野心的な自由貿易協定の締結を望んでいる事も表明した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/JPY

## 日経平均

OPEN	19226.94
HIGH	19668.01
LOW	18909.26
CLOSE	18909.26

## FTSE100

OPEN	7263.44
HIGH	7447.00
LOW	7255.78
CLOSE	7322.92

## 英2年債利回

OPEN	0.119%
HIGH	0.202%
LOW	0.031%
CLOSE	0.125%

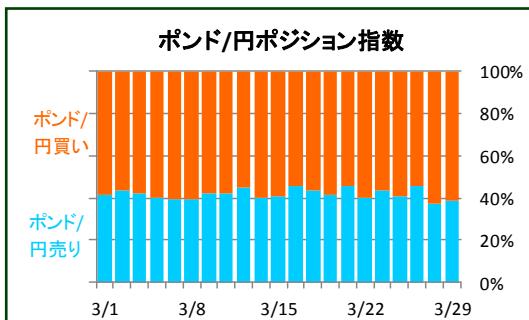
## 英10年債利回

OPEN	1.171%
HIGH	1.300%
LOW	1.108%
CLOSE	1.139%

## 3月のポジション動向

## 4月の英国の注目材料

ポンド/円ポジション指数



- ・3月英製造業PMI(3日)
- ・3月英建設業PMI(4日)
- ・3月英サービス業PMI(5日)
- ・2月英貿易収支(7日)
- ・2月英鉱工業生産(7日)
- ・3月英消費者物価指数(11日)
- ・3月英生産者物価指数(11日)
- ・3月英雇用統計(12日)
- ・3月英小売売上高(21日)
- ・1-3月期英GDP・速報値(28日)
- ・臨時EU首脳会議(29日)

## 4月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

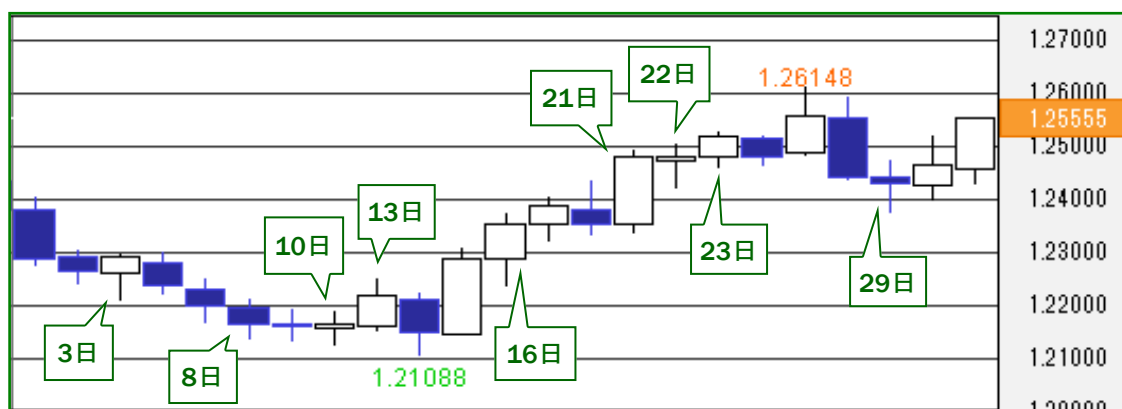
英国の欧州連合(EU)離脱に向けた正式交渉がスタートする。2年間(全者の合意があれば延長は可能)の期限内に、費用負担などをめぐる離脱交渉と、新たな貿易協定を結び直す通商協議が必要になるため、前途は多難と言うほかない。メイ英首相は離脱交渉と通商協議を最初から並行して行うようEUに要請しているが、トウスクEU大統領はその可能性を否定。通商協議は離脱交渉で十分な進展があった場合にのみ始まるとしている。EUは、通商に関する予備協議を始める前に進展が必要な分野として、英国内のEU市民と他のEU諸国内の英国市民の権利の保護、英国が負担する分担金や負債に基づく離脱費用の算定、企業や組織に生じる不確実性を防ぐための明確な法的枠組み作り、EUに残留するアイルランドと英国の一部である北アイルランドとの間の国境管理などを交渉指針案として発表。今月29日に開く臨時EU首脳会議(除く英国)で同案を採択する予定となっている。ブレグジットにまつわる交渉の難航は、英国経済への不利益を想起させるためポンド安圧力となりやすい。(神田)

(予想レンジ: 135.500-141.000円)

# GBP/USD

## ポンド/ドル 3月の推移

3月のポンド/ドル相場は、1.21088～1.26148ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%上昇(ポンド高・ドル安)した。英国の欧州連合(EU)離脱に伴う経済悪化懸念や、欧州全般の右傾化懸念から、約2カ月ぶりの安値となる1.21088ドルまでポンド安に振れたが、その後は持ち直した。米連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ後に、出尽くし感からドルが下落した事や、英インフレ高進により、英中銀(BOE)が利上げに動く可能性が排除できなくなった事から27日には1.26148ドルまで反発した。なお、英政府は29日にEUへの離脱通告を正式に行ったが、ポンド相場への影響は限定的であった。



四本値	
OPEN	1.23820
HIGH	1.26148
LOW	1.21088
CLOSE	1.25555

3日	英2月サービス業PMIが53.3と市場予想(54.1)を下回ると一時ポンドが売られた。しかし、仏大統領選の世論調査で、反EUを掲げる国民戦線のルペン党首の支持率が低下した事を受けて欧州通貨が買われた流れに沿って反発した。
8日	ハモンド英財務相は、欧州連合(EU)離脱決定後初となる予算案を発表。その中で、2017年の成長率予想を従来の1.4%から2.0%へと大幅に引き上げた事を受けてポンド買いが強まった。ただ、来年以降の予想は、18年1.6%(従来予想1.7%)、19年1.7%(同2.1%)、20年1.9%(同2.1%)にそれぞれ引き下げられた。
10日	英1月鉱工業生産は前月比-0.4%と前回の同+0.9%から急減速したが、市場予想(-0.5%)ほどには減少しなかった。また、英1月貿易収支は108.33億ポンドの赤字と、予想(111.00億ポンドの赤字)を下回る赤字幅にとどまった。一連の統計発表後に一時ポンド買いが強まる場面があった。
13日	スコットランド自治政府のスタージョン首相は、英国の欧州連合(EU)離脱の条件が明確になる2018年末か19年初めに、スコットランドの英国独立の是非を問う住民投票を再実施するよう求めた。これを受けて一時ポンド安が進行したが、英タイムズ紙が、メイ英首相がスコットランドの要求を拒否する意向だと報じた事などから反発した。
16日	BOEは政策金利(0.25%)と資産買い入れプログラムの規模(4350億ポンド)の据え置きを決定。議事録で、金利据え置きが8:1の決定であり(資産買い入れプログラムは全会一致で決定)、フォーブス委員が0.25%利上げを主張した事が明らかとなった。これを受けてポンド買いが強まった。
21日	英2月消費者物価指数は前年比+2.3%、英2月生産者物価指数は同+3.7%(予想:+2.1%、+3.7%)と、いずれも高い伸びを示した。また、英2月小売物価指数も前年比+3.2%、コアは同+3.5%と予想(+2.9%、+3.1%)となり、全般的にインフレ圧力の高まりが感じられる中、一時1.25ドル台目前までポンドが上昇した。
22日	英議会の付近で少なくとも12人が負傷する襲撃事件(のちに、犯人を含む5人が死亡、負傷者は40人と発表)。この報道に反応して一時ポンド売りが強まる場面があった。
23日	英2月小売売上高は、除自動車燃料が前月比+1.3%、含自動車燃料は同+1.4%と予想(+0.3%、+0.4%)を大きく上回った。これを受けて一時1.2530ドル台までポンドが買われた。
29日	メイ英首相は議会で「EU基本条約(リスボン条約)50条に基づく離脱手続きが英国国民の意向に沿って始まった。英国はEUを離脱する」と表明した。なお、メイ首相はトラスクEU大統領側に宛てた書簡で、「離脱の条件とともに、将来的なパートナーシップの条件についても合意する必要がある」とし、EUと野心的な自由貿易協定の締結を望んでいる事も表明した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## NYダウ平均

OPEN	20957.29
HIGH	21169.11
LOW	20412.80
CLOSE	20663.22

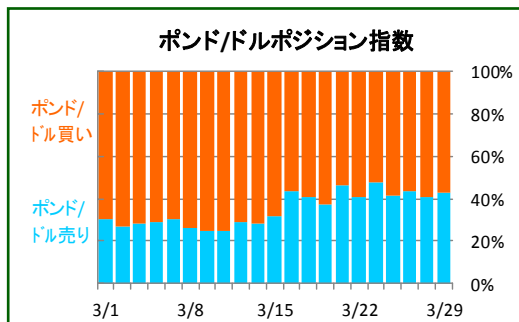
## 米10年債利回

OPEN	2.4132%
HIGH	2.6277%
LOW	2.3460%
CLOSE	2.3874%

## 英10年債利回

OPEN	1.171%
HIGH	1.300%
LOW	1.108%
CLOSE	1.139%

## 3月のポジション動向



## 4月の英国の注目材料

- ・3月英製造業PMI(3日)
- ・3月英建設業PMI(4日)
- ・3月英サービス業PMI(5日)
- ・2月英貿易収支(7日)
- ・2月英鉱工業生産(7日)
- ・3月英消費者物価指数(11日)
- ・3月英生産者物価指数(11日)
- ・3月英雇用統計(12日)
- ・3月英小売売上高(21日)
- ・1-3月期英GDP・速報値(28日)
- ・臨時EU首脳会議(29日)

## 4月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

ポンド/ドル相場は昨年10月の急落以降、1.20ドル前後まで下落すれば反転する一方、上値を徐々に切り下げる展開(昨年12月高値1.27735ドル、今年2月高値1.27069ドル、先月高値1.26148ドル)となっている。1.25ドル台で4月相場がスタートした事を考えると、上値余地はそれほど大きくないと考えられる。英国の欧州連合(EU)離脱が正式に通告され、今後の交渉難航が見込まれる中ではポンドの上値は重くなりそうだ。もし、予想外にポンド/ドル相場が上昇するとすれば、3月と同様にドル安が進行した場合だろう。3月は米経済指標の好結果によって段階的な利上げへの期待が維持されたためドルの下落は小幅にとどまったが、トランプ米大統領の政権運営能力が不安視される中、米経済指標に冴えない結果が続いた場合はドル安加速に注意が必要となる。7日の米3月雇用統計や14日の米3月小売売上高、28日の米1-3月期国内総生産(GDP)・速報値などが注目されよう。(神田)

(予想レンジ: 1.21000~1.27500ドル)